

平成22年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目(該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2010-A-01(1401)

3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文：地震活動・火山現象のモニタリングシステムの高度化英文：Improvement of technique for monitoring earthquakes and volcanoes4. 研究代表者所属・氏名 東大地震研・卜部 卓(地震研究所担当教員名) 卜部 卓

5. 利用者・参加者の詳細(研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
汐見 勝彦	防災科研	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無
武田 直人	産総研	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無
今西 和俊	産総研	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無
勝間田明男	気象研	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無
鎌谷 紀子	気象研	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無
関根秀太郎	予知振興会	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無
岩瀬 良一	JAMSTEC	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無
渡邊 智毅	マリン・ワーク・ジャパン	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無
大久保慎人	東濃地震科学研	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	有
山中 佳子	名大	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無
堀川信一郎	名大	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無
加納 靖之	京大防災研	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無
為栗 健	京大防災研(桜島)	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無
久保 篤規	高知大	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無
植平 賢司	九大	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無
馬越 孝道	長崎大	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	有
鷹野 澄	地震研	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無
平田 直	地震研	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無
小原 一成	地震研	リアルタイムデータ交換	H22.4.1~H23.3.31	365	無

笠原 敬司	地震研	リアルタイムデータ交換	H22.4.1～H23.3.31	365	無
卜部 卓	地震研	リアルタイムデータ交換	H22.4.1～H23.3.31	365	無
鶴岡 弘	地震研	リアルタイムデータ交換	H22.4.1～H23.3.31	365	無
中川 茂樹	地震研	リアルタイムデータ交換	H22.4.1～H23.3.31	365	無
伊藤 貴盛	地震研	リアルタイムデータ交換	H22.4.1～H23.3.31	365	無

6. 研究内容（コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入）

キーワード：JDXnet, 地震データ流通, リアルタイム地震解析, JGN2plus, SINET3

全国の国立大学ならびに防災科研、気象庁、JAMSTEC などの研究者・実務者により、全国的な高感度地震観測データの流通システムが構築され、基盤的観測網を軸にして、調査観測システムを有機的に連携する共同体制を実現している。これにより全国のすべての高感度地震観測データがリアルタイムで各機関に提供されるとともに、気象庁の一元化震源決定処理や、防災科研のデータ公開などに利用されている。これまで、情報通信研究機構(NICT)の JGN2plus や国立情報学研究所の SINET3 の広域 L2 網を活用した大学間の地震波形データ交換を実現し、それらが利用できない大学には NTT のフレッツグループを利用して、全国の大学等を結ぶ新しい全国地震データ流通ネットワーク JDXnet を構築してきた。この結果、各大学等の研究者による地殻活動モニタリング手法などの研究能力が飛躍的に高まり、リアルタイムで地震メカニズムや深部微動活動、相似地震活動などをモニタリングするシステムの研究開発などが発展してきている。本共同研究ではまた JDXnet のデータをさらに多くの大学等で活用できるための基盤的な研究も進めている。H23 年 3 月 31 日に地震研究所にて参加者 28 名による「データ流通ワークショップ」を開催し、その発表要旨集を作成した。

7. 研究実績報告（公表された成果のリスト*¹または2000～3000字の報告書）

(*¹論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

- (1) データ流通ワークショップ（於・東京大学地震研究所、2011年3月31日）発表要旨集、謝辞への記載あり、5ポイント。